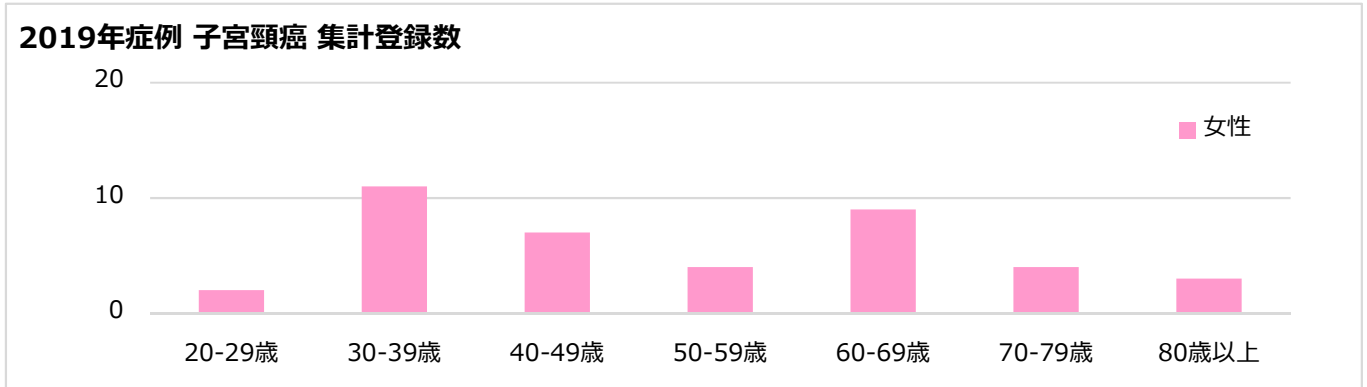
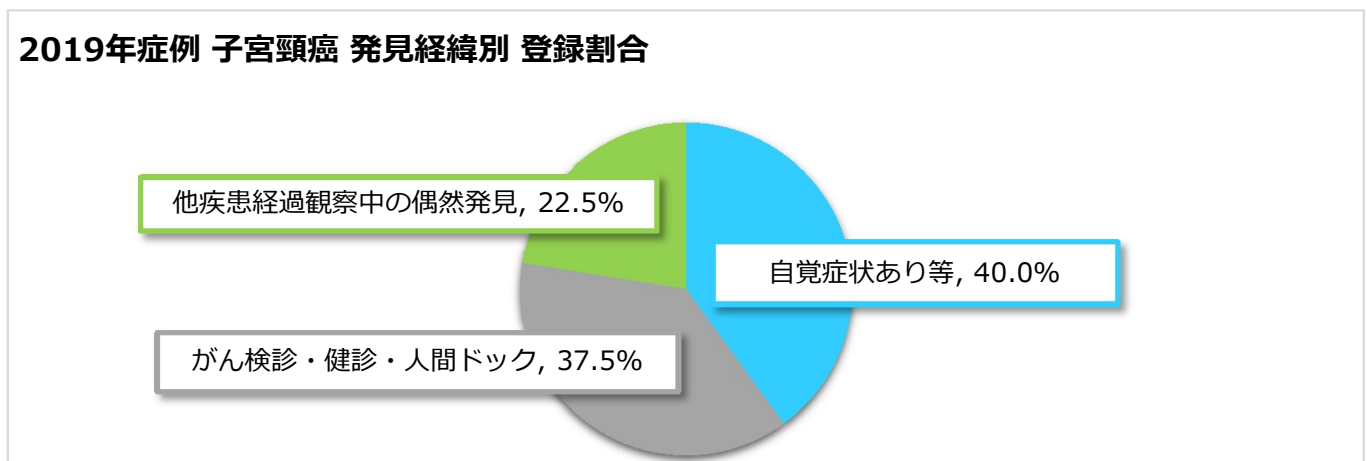
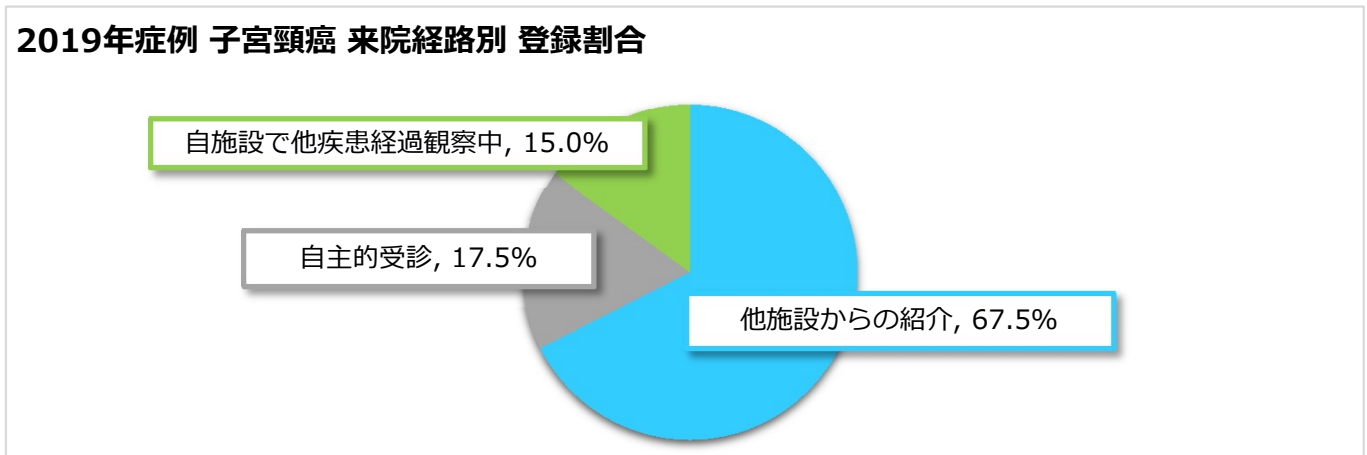
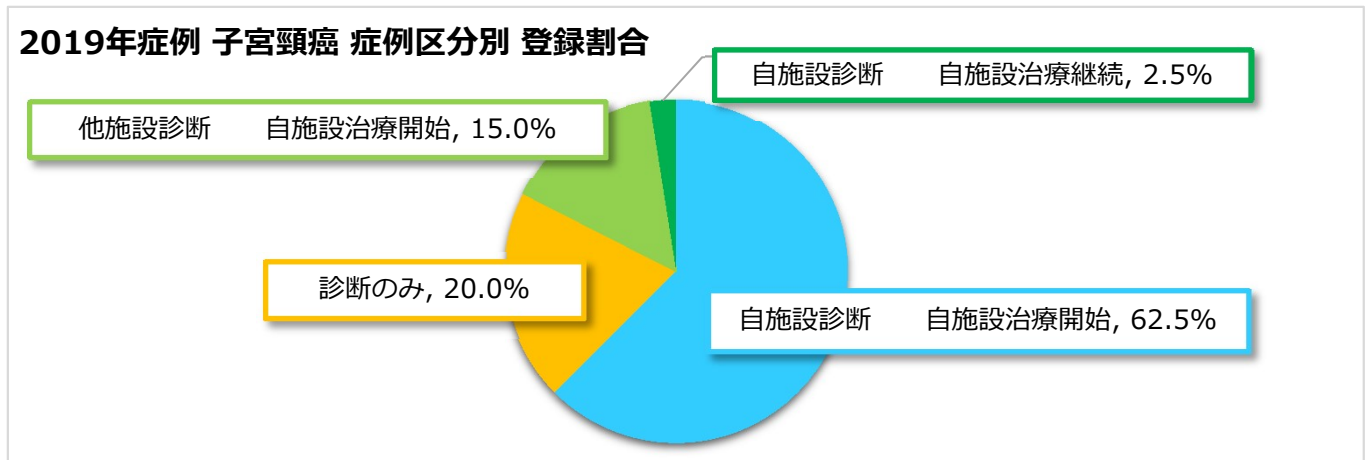


2019年症例 子宮頸癌

1 年齢階級別 (セカンドオピニオン等除く)

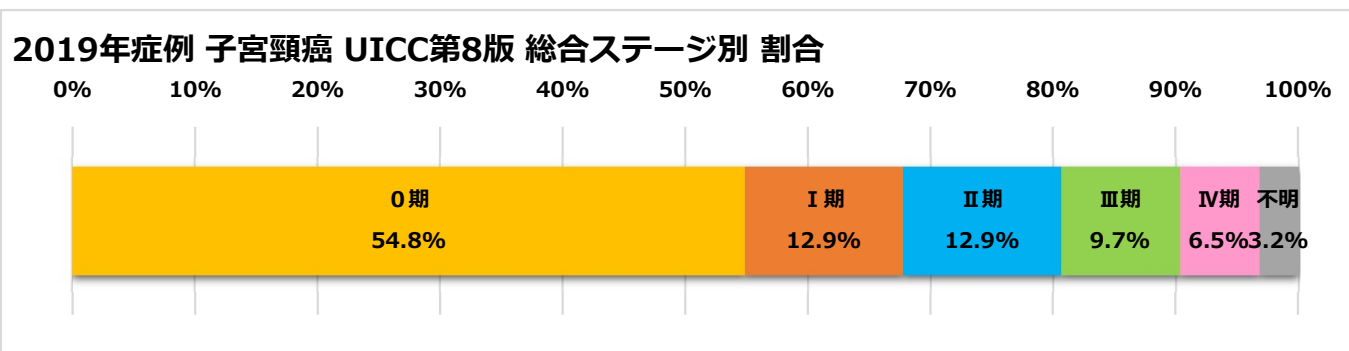


2 症例区分・来院経路・発見経緯 (セカンドオピニオン等除く)

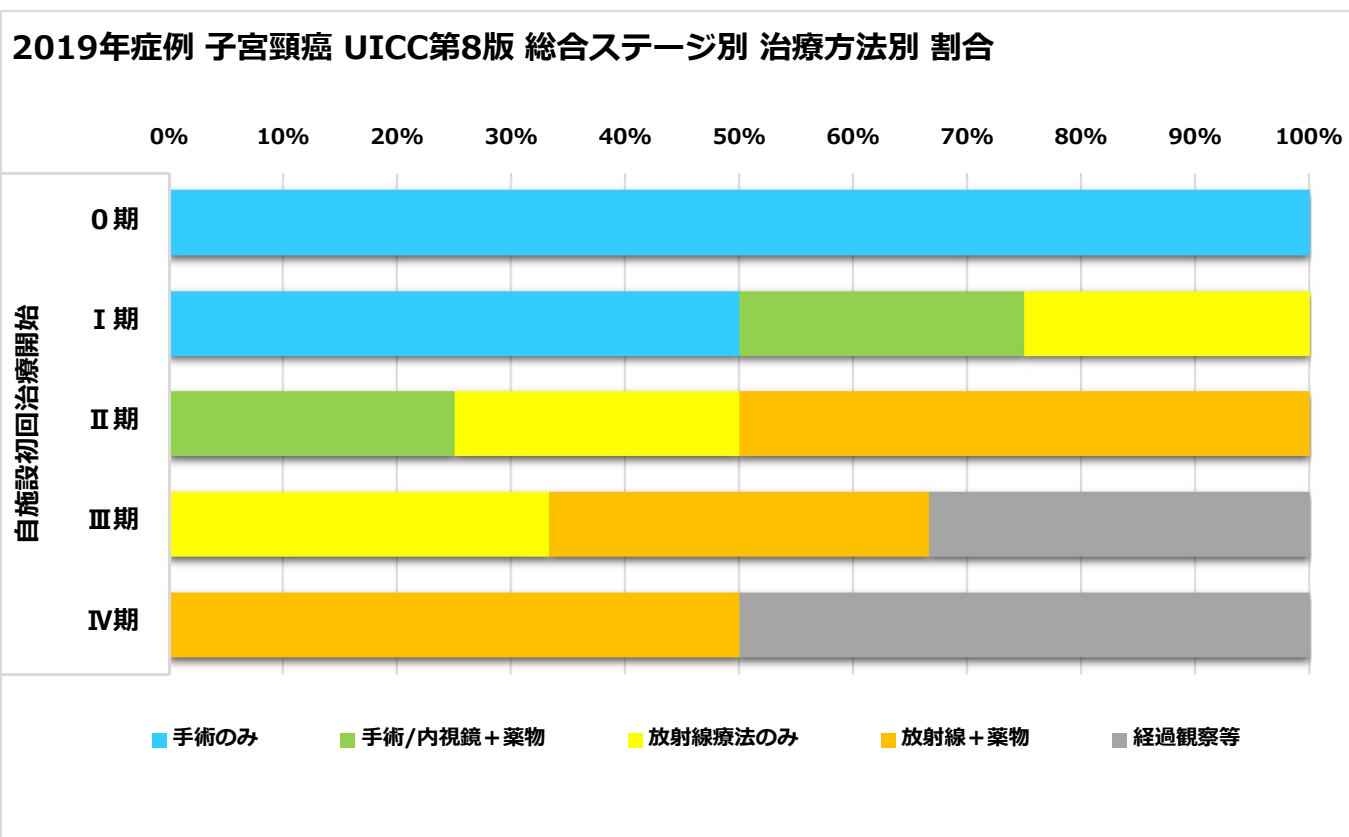


3 UICC第8版 総合ステージ

- ※当院で初回治療を開始した症例のみを集計した資料になります。診断のみの症例、他施設からの継続症例、初回治療終了後の緩和医療等に該当する症例は含みません。
- ※他院で初回治療を開始した後に当院で行った治療や再発時の治療は含みません。
- ※国際疾病分類（UICC第8版）及び院内がん登録のルールに従い集計しています。一般に用いられている取扱い規約の臨床進行病期分類と異なる場合があります。
- ※総合ステージとは、臨床ステージに術後病理学的結果を加味したステージであり、がんの治療開始時におけるもっとも確からしいステージを示しています。
- ※国立がん研究センターがん情報サービスの「院内がん登録全国集計結果閲覧システム」の施設別集計値と異なる可能性があります。（初回治療実施期間等の定義の違いによる）



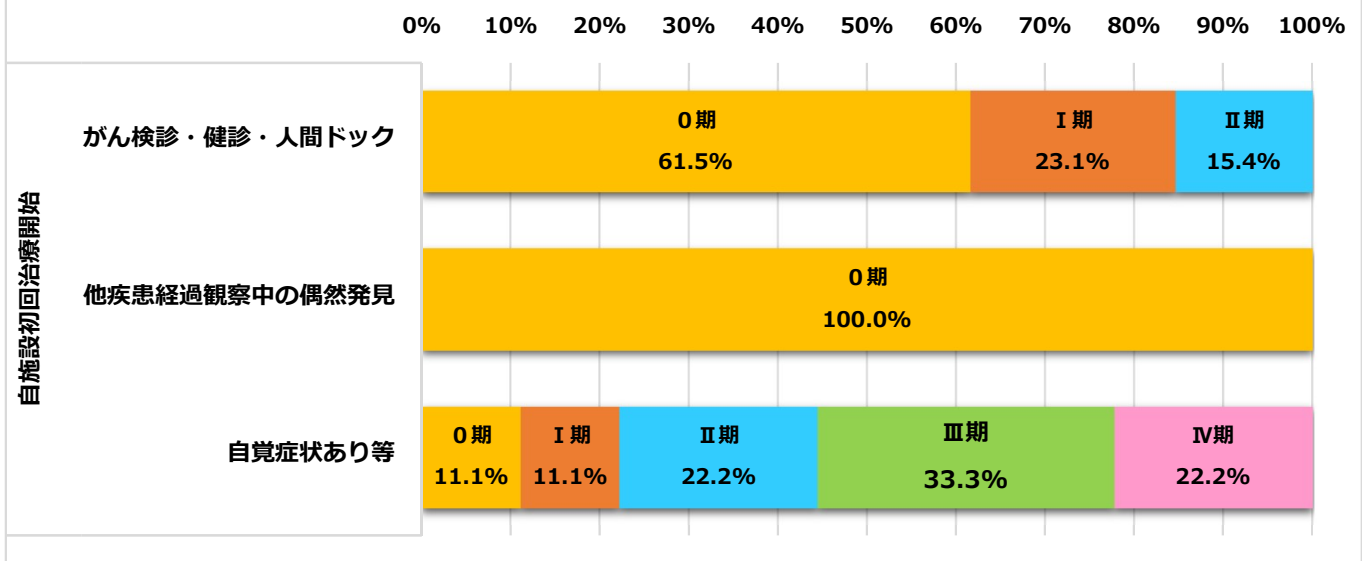
がんの進行の程度は、「病期（ステージ）」として分類し、ローマ数字で表記することが一般的です。子宮頸癌は、高度異形成、上皮内がん（前がん病変）から進行するにつれて0期～IV期に分類されます。



子宮頸癌の治療には、手術、放射線、薬物療法があります。治療法は、がんの進行の程度、全身状態、年齢、希望などを考慮して決定します。

4 発見経緯とステージ

2019年症例 子宮頸癌 発見経緯別 UICC第8版 総合ステージ別 割合



上のグラフは、当院で初回治療を開始した子宮頸癌症例について発見経緯別にごんの進行度を示したものです。「がん検診・健診・人間ドック」と「他疾患経過観察中の偶然発見」は0期・I期の早期発見が多いのに対して、「自覚症状あり等」の場合は、がんが進行してから発見されることが多いです。このことから、子宮頸癌の早期発見には、「がん検診・健診・人間ドック」が有効であることがわかります。

国は、がん検診の効果について評価を行い、がんによる死亡を減らすことができると科学的に認められた5つのがん検診を市町村の事業として行われるよう、指針を示しています。「子宮頸がん検診」はそのうちの1つで、検査方法は「細胞診」です。「子宮頸がん検診」の対象となる年齢、実施時期、実施場所、検査方法、費用負担等は、お住いの市町村にご確認ください。なお、「子宮頸がん検診」により精密検査が必要（要精検）と判定されたら、必ず精密検査（組織診など）を受けてください。「症状がない」といった理由で精密検査を受けないと、がんを放置してしまう可能性があります。

君津中央病院の人間ドックでは、「子宮頸がん検査（頸部細胞診）」を行っております。子宮頸がんは、ヒトパピローマウイルス（HPV）の感染が関連しています。ごく一部で感染が持続した場合、前がん病変（異形成）を経て、子宮頸がんになります。子宮頸がんに罹患する人は、わが国の女性のがんの中でも比較的多く、当院でも30～40歳代で増加傾向にあります。子宮頸がんは、早期発見が可能ながんでもありますので、人間ドック受診の際には「子宮頸がん検査」を追加することをお勧めします。

早期の子宮頸がんは自覚症状がないことが多いですが、不正出血や月経が不規則などの症状がある場合にはすぐに医療機関を受診してください。

当院を受診する際には、かかりつけ医の紹介状や検査結果をお持ちくださいますようお願いいたします。

<君津中央病院人間ドックのご予約方法>

直接ご来院いただくかお電話にてお申し込みください。

- ・受付場所：2階公衆衛生科人間ドック受付
- ・電話：0438-36-1071（内線2804）
- ・受付時間：平日 10時～16時

詳しくは、「人間ドックご利用のご案内」をご覧ください。